

★1年の締めくくりは、すべてのことに感謝の気持ちを込めて。

今月のピックアップ

## 「お歳暮」

年の暮れが近づくと、お世話になった方々へ、今年1年の感謝の気持ちと来年も変わらぬ関係が続くことを願い、「お歳暮」を贈ります。古くは神様や祖先へのお供物をする行事だったと言われています。贈る相手を想い、品物を選ぶ時間も大切に。



昔の贈り物リストは  
ロマンがあつて  
興味深いニヤ



1年の中で感謝を伝える機会がもっとも多い12月。その時に一役買ってくれるのが贈答品です。その歴史は琉球王国の時代までさかのぼります。沖縄は諸外国との交易で特産品を贈り合うことで、琉球の力を示しつつ相手国と友好関係を築き、経済的な発展を遂げてきました。

明朝への贈答品は  
硫黄と馬がメイン?

膨大な外交文書が収録された史料「歴代宝案」には、琉球王朝を中心とした時代に、琉球が活発に交易を行った記録が残されています。

この史料によると、琉球は明朝との交易で、主に馬や硫黄を進貢品として贈っていたことが記録されました。また、琉球の中山王からシャム（現在のタイ）の国王に向け、贈り物を持たせて使者を送った際の手紙には、「贈り物を持たせて感謝の思いを伝えるので受け取って欲しい」というメッセージとともに、「陶磁器を持参するのでシャムの胡椒と、蘇木（主に染料として使われた）との公平な交易を許可していただけないか」というお願いも書かれています。手紙の最後には「贈り物一覧」として、織物、腰刀、青磁の皿、硫黄をそれぞれいくつずつ贈る、という記述もあり、実際の交易の様子を垣間見ることができます。

## 生まれた琉球菓子

「ちんすこう」は、もとは王族や貴族のお祝い事のお菓子として琉球王国時代後期に作られたとされています。また、柑橘類を主原料としたお菓子「きつぱん」は、中国から冊封使が来た際に、おもてなし料理と

また、現代では着物のほか、贈答用の小物などにも使われている紅型も、交易によりもたらされたインド更紗、ジャワ更紗、中国の型紙による花布などから技法を取り入れ生まれたとされており、交易は沖縄の工芸の発展にも大きく影響を及ぼしたといわれています。

沖縄で喜ばれる  
お歳暮とは?

自分ではなかなか買わない特別感のある食品や、逆にいくつあっても困らない普段使いしやすいものなど、お歳暮選びは相手のことを考えるなど、つい迷ってしまいます。

県内のスーパー・マーケットによると、沖縄県内で贈り合う場合、人気なのは、お米とツナ缶だそうです。お米は全国的にも贈られる機会が多そうですが、ツナ缶が多く選ばれるのは他府県では珍しいことかもしれません。お歳暮の商品選びでも、地域の特色が見えてきます。



今はおやつとして人気のちんすこう



タマ  
イリオモテヤマネコ。特殊な機器を取り付けると、なんでもタイムマシンに変えられる。

ハイフ  
小学4年生。平和主義者。パイン好き。

